



### 現状と課題

- 東日本大震災及び原発事故の発生から13年が経過し、全国で風化が進んでいる中、東日本大震災及び原子力災害を経験していない児童生徒あるいは発災当時の記憶が乏しい児童生徒が年々増加し、福島大学や東日本大震災・原子力災害伝承館がそれぞれ行った調査で、県内県外を問わず成人を迎える世代における震災の正しい情報への認知度の低さが判明している。風化を防止するためには、年齢に応じた震災伝承の取組、学びが必要であり、横断的な施策の展開が必要である。
- 語り部等の生の声による震災等の経験の伝承が、記憶の定着に効果があるとの研究結果が出ており、生の声による伝承の継続が重要視されている。一方で、語り部活動を展開している団体においては、後継者不足や事務体制の脆弱さなどが課題となっており、持続可能な体制の構築に向けた継続的な取組が求められている。

**Q 原発事故後、把握されている避難者数のピーク（2012年5月）時点での、県内・県外への避難者数は合計して約何人か。**

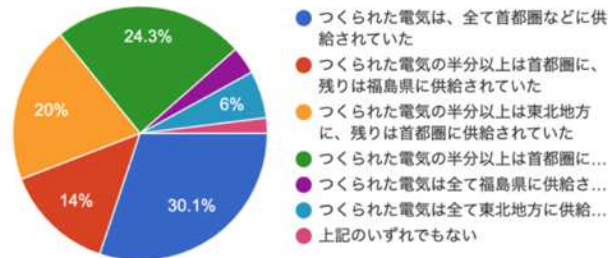
- ア 約 1万 6000 人
- イ 約 8 万人
- ウ 約 16 万人
- エ 約 80 万人
- オ 知らない・分からない

〔正答率の推移〕

2019年度	2021年度	2022年度
46.6%	38.0%	31.1%

東日本大震災後の福島に関する知識の年次変化について(福島大学教育機構(前川直哉准教授)2023年11月より)

**Q 福島第一原子力発電所について、正しい内容を1つ選んでください**



第1回 災害記憶消滅世代認識調査 報告書(東日本大震災・原子力災害伝承館(開沼上級研究員・東京大学准教授)2024年6月より)

### 県の施策の展開

小学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ ふくしまキッズパワーアップ事業</li> <li>❑ 読書活動支援者育成事業</li> <li>❑ 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業</li> <li>❑ 小学校社会科地域副読本</li> <li>❑ 東日本大震災・原子力災害伝承館学習支援事業</li> </ul>
中学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ ふくしまキッズパワーアップ事業（再掲）</li> <li>❑ 読書活動支援者育成事業（再掲）</li> <li>❑ 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業（再掲）</li> <li>❑ 東日本大震災・原子力災害伝承館学習支援事業（再掲）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学習用のプログラムおよび学習用・指導用資料を作成</li> </ul>
高校生	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業</li> <li>❑ 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業（再掲）</li> <li>❑ 東日本大震災・原子力災害伝承館学習支援事業（再掲）</li> </ul>
大学生以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ ホープツーリズム</li> <li>❑ 次世代へつなぐ震災伝承事業</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットワーク会議設置（2022年～）、交流会開催</li> <li>・ 伝承者育成講座（2023年～）、伝承者英語講座（2024年～）</li> <li>・ 県外への語り部派遣（2022年：5件、2023年：19件、2024年：25件）</li> <li>・ 海外への語り部派遣（2024年：フランス）</li> <li>・ 県内教育機関への語り部派遣（2024年～）</li> </ul>